

# 日本作業療法教育学会ニュース 第 73 号

2021 年 1 月 1 日発行  
日本作業療法教育学会

=紙面案内=

- 1-3 面：第 25 回日本作業療法教育学会の報告
- 4 面：第 26 回日本作業療法教育学会開催のご挨拶
- 4-7 面：事務局だより  
研究助成募集要項

事務局

〒135-0043 東京都江東区塩浜 2-22-10

東京保健医療専門職大学

リハビリテーション学部 作業療法学科 近野 智子

TEL: 03-6659-7796 (直通) FAX: 03-6272-5672

E-mail otkyoiku@gmail.com

## 第 25 回 日本作業療法教育学会を終えて

第 25 回 日本作業療法教育学会  
大会長 白鳳短期大学 西井正樹

秋晴れのよい季節に第 25 回日本作業療法教育学会が開催されました。今回の学会は、本来ですと京都での 2 日間の開催を考えていましたが、COVID-19 の影響もあり、本学会において、初めての Web 学会となりました。今回の開催期間は 2 週間とし、11 月 8 日に Zoom による Web 対面での学会となりました。申込者は、62 名（会員 50 名 非会員 12 名）の参加で、例年と同じくらいの参加人数でした。

今回の学会のテーマは、「作業療法教育における学生評価の再考」であり、このテーマは、2020 年入学生より新しい理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則に伴い、養成校にも変革を求められました。そこで今回は「学生の評価」に着目し、学生の評価がどのように変遷してきたのか、今後の動向をはじめ、学内での臨床実習に向けた取り組み、また作業療法参加型実習における臨床施設の取り組みなどをテーマとしました。

学会の構成は、教育講演・シンポジウム・特別講演・演題発表の 4 つの柱で行いました。教育講演では、藤田医科大学の鈴木孝治先生に「作業療法士教育における OSCE の導入と学生評価」についてお話ししていただきました。これまで鈴木先生が取り組んでこられた OSCE について丁寧に解説していただきました。特別講演では、本学会の会長である東北福祉大学の佐藤善久先生に「作業療法教育評価の変遷とこれから」をわかりやすく教育評価について話していただきました。シンポジウムでは、3 人の臨床の作業療法士の方に、実習の取り組み、学生を導く方法について話していただきました。教員である私も、ぜひ 3 人の先生方に学生を任せたいと思うような内容でした。

いつもは、1 日目の学会後の飲みニケーションはいつも楽しみにしていましたが、今回は、残念ながら中止となりましたので、第 26 回の金沢大会のカニを楽しみにしています。

今回は、Web での学会の可能性を提示できた大会で、盛会に終了することができました。

## 魔術のような学術集会運営

第 25 回 日本作業療法教育学術集会 実行委員長  
神戸学院大学 小川真寛

中世ヨーロッパでは職人はそれぞれの職種に分かれギルドと呼ばれる専門家集団の中で教育を受けていたとされます。ギルトの内部のみに知識や技術は伝承され、それは文章化されることもないため、専門家の持つ知識や技術は一般から見て魔術のようなものと考えられていたそうです。時代は変遷し印刷や通信の情報技術革新により魔術とされた知識や技術は拡散されるようになり、学習や教育の在り方のパラダイムは大きく変わってきました。

現在、作業療法教育は大きなパラダイムの変化の真っ只中です。そのような時代背景の中、本学術集会の運営は、運営そのものがコロナ禍という大きな変化の波にのまれました。本学術集会は当初、観光客で賑わう秋の京都にて開催する予定でしたが、まさかの web 上、つまり仮想空間での開催、自宅の小部屋からの参加という事態になるとは実行委員長就任当初全く想定していませんでした。大会長をはじめとする学術集会の運営委員とは 2 月に京都での会場下見に一度対面しただけ。それ以降はオンライン打合せとなり、直接の対面は二度と叶うことなく、学術集会を挙げるまでに至りました。

学術集会が終わって 1 週間が経ちましたが、現実感の伴わない空虚な感じもする魔術をかけられたような感覚で、誰にも対面せずに学術集会が終えたことはやはり不思議な感覚にとらわれます。情報技術革新は教育の長い歴史の中でまた大きく知識共有の場の在り方も変えようとしています。教育の形態も大きなパラダイムシフトを迎えている中、作業療法教育の中身も適応的に、発展的に考えていくことの重要性を感じさせられた学術集会とその運営でした。

学術集会に協力、参加いただいた皆様には実行委員を代表して心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

次回、学術集会では皆様に対面できることを祈っております。

## 第 25 回日本作業療法教育学術集会に参加して

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室  
川又寛徳

私が所属する福島県立医科大学は、医学部と看護学部を擁する大学ですが、来春「保健科学部（作業療法学科、他 3 学科）」の開設を控え、目下準備中です。先日、文部科学省の設置認可を無事受けることができましたが、カリキュラムを検討する中で、臨床実習や OSCE をどのように効果的に教育に盛り込むかは重要なポイントでしたので、情報を収集する目的で今回の学術集会に参加させていただきました。また、私は別の養成校で 5 年間教育に携わりましたが、当大学の設置準備室勤務も含め、約 8 年間養成教育の現場から離れていたため、今回の学術集会のテーマでもある「教育評価」について改めて学びたいというのも参加する動機のひとつでした。

藤田医科大学の鈴木孝治先生による教育講演は、OSCE の実際と課題等について大変示唆に富む内容で、学内の講義や演習と、臨床実習、OSCE を有機的に運用する重要性について考えさせられました。東北福祉大学の佐藤善久先生による特別講演は、教育評価の背景を踏まえてわかりやすく解説いただき、今後教育評価を行っていく上でとても参考になる内容で、さっそく当大学の準備室の教員間で共有させていただきました。シンポジウム「作業療法参加型実習を考える」では、3 人のシンポジストから、それぞれ身体障害、精神障害、介護保険の 3 つの領域での作業療法参加型実習の指導例を伺うことができ、

学生・臨床実習指導者・教員の3者が協力してより良い実習を作っていくポイントについて示唆を得ることができました。

対面ではないため、参加者間で情報交換することはできませんでしたが、今回の学術集会は教育評価や臨床実習やOSCEについて学ぶ大変実りが多い機会となりました。来年は金沢で開催されるとのことですが、引き続き参加し、作業療法教育について学びを深めたいと思います。

最後に、COVID-19の影響で対面による開催が困難な中、Zoomとオンデマンド配信により学術集會を開催し、学ぶ機会を提供して下さった実行委員の皆様へ感謝いたします。

## 「第25回日本作業療法教育学術集會」への参加からはじまること

茨城県立医療大学保健医療学部 作業療法学科  
谷 詩織

私は、今回はじめて、日本作業療法教育学術集會に参加させていただきました。そして、作業療法教育における学生評価について学ぶとともに、今後の自身の取り組みについて考えることができました。

講演や発表は、どれも大変興味深い内容でした。鈴木孝治先生の御講演では、今日までの作業療法士教育におけるOSCEの変遷を伺うことができました。OSCEは、日頃から学生が取り組み、自身も外部評価者や模擬患者として携わるなど、身近に感じていた学習形態であるため、その背景を知り、とても感慨深いものがありました。また、作業療法参加型実習のシンポジウムでは、指導者の先生の関わりを伺い、改めて学生を中心とした教育の重要性を感じました。今後は、学んだことを作業療法教育の現場で活かしていきたいと思います。

演題発表では、「がん領域の作業療法に関する学生の認識の変化と授業方法の検討」の題で、発表の機会をいただきました。準備や発表を機に、がん・終末期がん領域の作業療法の卒前教育の拡充に向け、必要なことや自分ができることを、より深く考えることができました。同時に、今回学んだ、先生方の他領域における熱心な取り組みが大変に参考になり、励みになりました。さらに、学術集會後、「次回の授業の参考になりました」とのコメントもいただき、自身の取り組みが少しずつ広がっていくのを感じ、心から嬉しく思いました。

今年度は、オンラインでの学術集會の開催でしたが、参加させていただく中で感じたのは、“本当に大切なことは伝わる”ということです。発信形態にとらわれず、自ら発信することや、メッセージを受け取ることの重要性を実感するとともに、オンラインの可能性を見出す、貴重な体験となりました。大切なのは行動すること……日本作業療法教育学術集會への参加からはじまることを心に、これからの作業療法教育に貢献できればと考えています。





るリモートによる方法について、規約の一部改訂及び規約の新設を行い、賛成多数で承認されました（賛成23/25）。改訂された会則は、日本作業療法教育学会会則に関する事項、賛助会員規定に関する事項、総会議事運営規程に関する事項でした。また、理事会の決定事項に関するものとして旅費規程、謝金規程の改訂及び学術大会運営規程の制定が報告されました。

第2号議案では、2019年度事業報告が全員賛成で承認されました。第3号議案では、2019年度会計報告がなされ、監事により収支状況が適正に示されている旨の報告があり、全員賛成多数で承認されました。第4号議案では、2020年度事業計画（案）が審議され全員賛成で承認されました。第5号議案では、2020年度予算（案）が審議され全員賛成で承認されました。第6号議案では、役員選挙について、選挙管理委員長の五十嵐千代子氏（日本リハビリテーション専門学校）より下記の報告がなされました。立候補者は、理事10名（理事推薦1名含む）、監事2名であり、会則に従い、候補者数は定数を超えなかったため、無投票当選となりました。本議案は全員賛成で可決されました。第7号議案では、委任状に記載された質問や意見が2件あったことが報告されました。

## 2020年度 第1回 理事会報告

日本作業療法教育学会第25回総会において、役員選挙の結果が承認され、2020年度より下記の理事及び監事が選出され、理事会により各理事の担当が決定しました。

### <理事>

佐藤 善久（東北福祉大学）：会長・企画担当・研究助成担当  
古山 千佳子（県立広島大学）：副会長（学術）・企画担当  
近野 智子（東京保健医療専門職大学）：副会長（財務）・事務局長  
酒井 ひとみ（関西福祉科学大学）：企画担当・研究助成担当  
小川 真寛（神戸学院大学）：機関誌編集担当  
小林 幸治（目白大学）：機関誌編集担当  
藪脇 健司（東北福祉大学）：広報担当（ウェブサイト）  
三橋 幸聖（昭和大学）：事務局  
吉川 ひろみ（県立広島大学）：研究助成担当  
藤原 瑞穂（神戸学院大学）：機関誌編集担当・広報担当（ニュース）

### <監事>

古川 宏（大阪人間科学大学）  
東川 哲朗（金沢脳神経外科病院）

2019年度まで長年役員を務めていただいた宮前珠子氏（聖隷クリストファー大学）、西井正樹氏（白鳳短期大学）に対して、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。\*\*\*

## New Face -----

吉川ひろみ（県立広島大学）

作業療法士の世界は、1980年代の理論開発に続き、2000年以降は「作業」に焦点を当てた専門職として統一感を高めつつあります。WFOTが発信する情報、世界的なテキストの内容を皆さんと共有する活動をしていきたいです。

藤原瑞穂（神戸学院大学）

臨床実習指導者講習会が全国で展開され、臨床実習指導者の意識が変わっていることを実感しています。作業療法という専門職集団として学び続ける仕組みを築いていく活動に関わりたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

-----  
2021年に開催予定の第26回学術大会の大会長に東川哲朗氏が選任されました。学術大会の日程と開催要項が決まり次第会員の皆様にお知らせいたします。



## -----\* 会員募集のお知らせ \*-----

作業療法教育学会では、会員を募集しています。

この学会では、より質の高い作業療法教育の実現を目指して、教育現場における様々な問題提起や問題解決に取り組んでいます。

主な活動は、年1回の学術大会、年2回の学術誌「作業療法教育研究」の発行、年2~4回のニュース発行、ホームページを通じた情報発信と情報共有です。現在の会員数は241名、賛助会員1法人です。作業療法士教育に興味、関心のある方は、是非ご入会ください。お待ちしております。詳細は、日本作業療法教育学会ホームページ 入会案内 <http://www.joted.com/> をご覧ください。

入会金：1,000円

年会費：3,000円 賛助会員 一口10,000円

振込口座

郵便振替 01320-2-58224

日本作業療法教育学会

問い合わせ先

事務局 東京都江東区塩浜 2-22-10

東京保健医療専門職大学 作業療法学科

近野研究室内

E-mail:otkyoiku@gmail.com

EE

### 編集後記

このような1年になるとは思ってもいませんでした。コロナ渦を乗り越えるために学びのオンライン・デジタル化は一気に進み、Zoomによる学会や会議、そして授業のメリットも感じるようになりました。一方で、学生と話をする時間は圧倒的に少なくなりました。みんなの気持ちを探るために、瞳の奥を見つめています。

本年が皆様にとってよりよい年となりますように。(藤原)

EE

日本作業療法教育学会ニュース 73号 2020年12月27日発行／発行人 佐藤善久／編集人 藤原瑞穂